

2018年6月 一般質問抜粋

2011年10月の初当選以来、毎回議会では一般質問に立ち、本年6月議会での質問にて通算26回となりました。(代表質問1回含)



6月議会 一般質問項目

1.外国人観光客への対応について

- (1)案内表示の多言語化について
- (2)滞在型・体験型観光などの促進について
- (3)観光情報の発信について

2.Uターン・Iターンの促進について

- (1)現在の取り組みと今後について
- (2)地域おこし協力隊制度の活用について
- (3)空き家・空き店舗等の活用について



写真:西武池袋本店

経済環境部長 勝田駅の観光案内所などで5カ国語に対応した市観光パンフレットを配布したり、繁忙期にはJRや海浜鉄道で英語や中国語のガイドを配置し海外観光客への案内など対応している。東京オリンピック開催などに伴う海外観光客の増加に適切な情報提供ができるよう、他の言語での案内やさまざまな場面で柔軟な案内対応ができるデジタルサイネージの導入を検討する。

問 国営ひたち海浜公園を中心に外国人観光客が増加している。勝田駅でも多く見かけるようになった。案内の多言語化へ、情報更新が容易なデジタルサイネージの導入も有効ではないか。

● 勝田駅橋上の案内表示を多言語化

(13) 鈴木 道生 議員

経済環境部長 起業家精神を持つ人材を東京から

問 東京一極集中が進む現実の中、本市や県北地区の活性化へ首都圏から起業家精神を持つ貴重な人材を呼び込むことは将来を見据えて重要であると考える。本市の取り組みについて伺う。

答 東京の定住やUターン・Iターンを含めた転入を促進することは、地域の活力を維持するうえで非常に重要な取り組みであると考えている。創業希望者には商工会議所やテクノセンターと協力しながら保証料補助や利子補給などの支援を行うほか、茨城県施策などと連携しながら若い世代の定住促進、創業支援に取り組んでいく。



(13) 鈴木 道生 議員

補足として

若い世代の人口減少、働き方改革、技術革新による自動化と、これまでの同一企業での「労働」中心の時代から、複数の仕事を持つことや、複数拠点で仕事をするなど、仕事を取り巻く環境も変化し、個々人が、「時間を使うか」「何をするか」をより柔軟に調整できる時代が来そうです。現在の産業集積の強みを生かしつつ、次の時代に資する「何かを始める」起業家精神を持つロールモデルとなる人材を首都圏から呼び込むことも、未来を見据えて重要であると考えます。また、趣味でも仕事でも「何かを始める」人が多い街こそ、賑わい元気であり続けるまちであると考えます。

9月議会では、11月18日に迫るひたちなか市長選挙そして、12月の県議会議員選挙に向けて、民主主義の根幹である選挙の「投票率を上げる為には」どのような施策を行うかについて質問を行う予定です。

また、中央図書館建替えについても、未来につながる施設となるように、必要な設備や規模、運営方法、立地、単独施設か複合かなど、特に力を入れて今後も取り組んでいきます。

地域の重大関心事である東海第二原発再稼働についても、複合災害発生時の避難が困難(30キロ圏に約96万人)、産業面(ひたちなか地区)など本市未来を見据え、再稼働には反対の立場に変わりはありません。

今後の市内選挙日程

2018年11月11日告示18日投票日
ひたちなか市長選挙

2018年12月(日程未定)
茨城県議会議員選挙

他市の図書館にも立ち寄り参考にしていきます。



大和市(複合施設)



結城市(複合施設)

他、土浦市
武蔵野市
など多数